

会議録（要点筆記）

会 議 名	平成30年度第2回 米原市子ども・子育て審議会
開 催 日 時	平成30年9月21日（金） 19時00分～21時00分
開 催 場 所	米原市役所山東庁舎2階会議室2AB
出席者および欠席者	出席者：西川正晃委員（会長）、井量昭委員（副会長）、 辻みや子委員、村山善信委員、福永ひろみ委員、四方由美子委員、 山口浩徳委員、木田藤正委員、武田英里香委員、丸本光雄委員、 田中寿子委員 事務局：平尾道雄市長、田中博之こども未来部長 子育て支援課：阿原麻木子課長、甲斐沼和弥、高橋仁 保育幼稚園課：奥村義治課長（兼務）、中川浩代、庄司裕之、 清水一美、高畑光昭 欠席者：戸田光子委員、羽瀧香委員、角田吾一委員、筒井明香委員、 山本望委員
議 題	（1）「第2期まいばら福祉のまちづくり計画」策定のためのアンケート調査結果報告書について （2）米原市の現状について （3）ニーズ調査について （4）その他
結 論	・ 平尾道雄市長が「第2期米原市子ども・子育て支援事業計画」の策定を本審議会に対して諮問した。 ・ 「第2期米原市子ども・子育て支援事業計画」策定のためのニーズ調査票についての議論を踏まえ、調査票の内容の最終決定については、会長および副会長に一任することとした。
審 議 経 過	1 開会 あいさつ 市長 平素は市政全般および子どもたちの発育・成長の支援に関わっていただき、改めて敬意を表したいと思います。どうもありがとうございます。平成24年に子ども・子育て関連3法が成立し、幼保一体化や待機児童等の課題に取り組み、地域での子育て支援をどう充実させるかが法律に明記され、地方自治体も様々な施策に取り組んでいます。米原市においても平成26年4月に米原市子ども条例を施行し、「県内一子育てしやすいまち米原」を掲げて、子ども・子育て支援事業計画を策定いたしました。その中で、認定こども園の整備や、中学生以下の医療費無料化、第2子以降の保育料軽減、給付型奨学金等、様々な子育て支援、若者支援、働く親支援を続けております。この子ども・子育て支援事業計画は、早くも来年度5年目となり、第2期目の計画策定時期に差し掛かっております。実情をしっかりと捉え、女性の就労率が高まる中で保育、放課後児童クラブ、そしてそこで働く方の職場環境など喫緊の課題について、第2期支援事業計画策定を諮問させていただきたいと思います。言うまでもなく、子どもたちは私たちの未来

市長	であります。どんな社会を未来に想定しているのか、今こそ私たち大人が子どもたちに何ができるのか、見つめて参りたいと思います。この審議会の皆様それぞれの立場で、忌憚のない御意見をいただき、新たな方向性を議論してくださるようお願いいたします。 2 諮問 米原市子ども・子育て審議会会長様へ、第2期米原市子ども・子育て支援事業計画の策定についての諮問です。国の制度や市の条例の趣旨を踏まえ、本市の次代を担う「まいばらっ子」の育ちと子育てを社会全体で支援していくことを基本としています。人口減少という自治体の存続に関わる問題に直面しており、子育て世代はもちろん、将来子どもを産み育てたいと望む若者世代にとっても、子育てに希望が持てる「県内一子育てしやすいまち」の実現に向けた計画にしたいと考えています。児童福祉や教育を始めとした広範な分野で御審議いただきたく、米原市子ども・子育て審議会に対して諮問いたします。皆さんよろしくお願いいたします。 (市長退席)
会長	皆様、お疲れのところありがとうございます。平成32年から平成36年までの5か年計画を策定するための審議という大変重要な会議と考えております。皆さんの忌憚のない御意見を、よろしくお願いいたします。
事務局	【会議の資料1～4、追加資料について説明】 条例により委員の半数以上の出席が必要となっております。本日、16人の委員のうち11人の方に御出席いただいておりますので、本審議会が成立しておりますことを御報告申し上げます。
事務局	3 議題 (1)「第2期まいばら福祉のまちづくり計画」策定のためのアンケート調査結果報告書について 【事務局から、資料1に基づき説明】
会長	まずは現状を皆さんで共有しようというところで、平成29年に行われたアンケートとワークショップの結果についての御報告でした。何か御質問があればお受けしたいと思います。いかがでしょうか。 (特にない模様)
会長	またニーズ調査のところで、この現状に返って御意見が出るとありますので、振り返りながら後ほど御質問、御意見をいただければと思います。

事務局	(2) 米原市の現状について 【事務局から、資料2に基づき説明】
会長	やはりニーズ調査を策定していくに当たっての、まず共有すべき情報というところではありますが、御意見、御質問等ございますでしょうか。子育て支援だから「支援」、「預かる」という部分だけではなく、地域で子どもがいなくなった現状等、それぞれのお立場で感じておられることも御発言いただければと思います。遊ぶ子もいなくなる、子育てしにくい、だから転出が超過していくという、負のスパイラルに陥っていくのではないかと、それを食い止めるために我々に何ができるかということを探っていかなければならないわけです。現状でお感じになっていること、子どもとの関わりの中で気づかれていること等、いかがでしょうか。
委員	子どもの親として、自分たちで何とかするというよりも、誰かになんとかしてほしいという雰囲気を感じる時がよくあります。
会長	例えば何か具体的というか、こういうことをしてほしいというものはありますか。
委員	例えば冒険遊び場などで、子どもが遊びに来るのは是非来てほしいのですが、いつもお世話になっているから何かお手伝いできることはありますかという人は少ないです。仕事をしないと生活ができないから誰かに見てほしいということかも知れません。市民同士の間でも何となく誰かに見てもらっておこうということがあり、違和感を覚えます。
会長	何か子育て支援の催しがあるときに、そこに預けたらいいよという親が増えてきているのではないかと、何か当たり前のように預ける、そういう御意見だったと思います。今日、ある子育て支援センターで正に同じような意見を聞きました。子どもを預けて、お母さんがたが女子会のような感じでおしゃべりしていると、地域のコミュニティー、お母さん方のコミュニティーという側面もあるのですが、どうも度が過ぎている、預かってもらって当たり前、そういう傾向がありますということを嘆いておられました。
委員	何か自分にできることはありますかとか、いつもありがとうとか、そういう思いがあるのが見えれば、大丈夫ですとか、こういうことをお願いしたいと言えるのですが、そこまで思いが至らないようです。
会長	審議会でも常に思っていることだと思いますが、子育て支援は預かることだけではなく、子育ての一義的責任というのは親であり、その親がしっかりと子育てに向き合っていけるように支えることも大事な子育て支援であります。その本質を見失っていくと、先ほどのデータでもいろいろな認知

委員	度は結構低い。けれど子どもを預けたいという中で、親が一義的な責任を果たさないような支援になってはいけないと感じられるということだと思います。その辺り、感じておられる部分とかありましたらお願いいたします。 以前は、お母さんは子育てに関する相談が多かった、「子どもが夜泣きをするので、どうしたらよいでしょう。」という目線で質問される保護者さんが多かったという記憶がありますが、今は「私が大変なんです。」「私の時間がなくて。」「子どもが夜泣きするので私が眠れない。」というような親からの声が多いと聞いています。イベントでお膳立てをしてもらって行けば何か楽しくさせてもらえる、という感覚で参加される方がすごく増えています。お母さんの子育てが子ども視点でなくなっている、利便性が重視される社会になってきているせいか、試行錯誤して何とかしようというもう一歩がなくて、お母さんは携帯を見て子どもは野放しです。どうやってサポートするのが支援なのか迷いがあります。すぐ結果を求める、よい結果が出ないと不安を感じる保護者さんがいて、子育て支援という立場でちょっと苦悩します。
会長	やはり子育て力の低下というのが、色々な状況を見ると、起こっているのではないかということだと思います。それぞれの立場でいかがでしょうか。
委員	意見ではないのですが、息子夫婦は「何か困るとすぐスマホで調べる。そしてすぐ正答が出る。結果が出る。だから余計に迷う。」と言っていました。仲間も、御近所というよりは、SNSでさっと仲のよい人が集ってしゃべったり、支援センターに行くにも近所というより、そのようにつながっている友達同士で行くので、私の頃とは違います。見て、経験して、育てるというよりは、上っ面の情報ばかりを耳にしていることが多いのではないかと、感じることがあります。親も深くは立ち入らないで見ているだけです。
会長	求めればすぐ答えてもらえる。しかし情報が溢れているのでどれが正しいかわからなくなっていく。先ほど「身近な地域」とは、20代30代では「小学校区」となっていたましたが、情報社会でひょっとするとSNSでのつながりが地域になっている、今までの地域の概念が通用しなくなってくるのか予想もつきません。ネットでつながっているのを身近な地域と考えてよいのか、次の5年を見通して何ができるのか、非常に難しいという感想です。
委員	子どもが時々子育て支援センターでお世話になっています。子育て支援センターに行くのは、家には無い遊具があるのと、子育てでわからないことがあったらお伺いするということも大切だと思います。孤立しがちな方も恐

会長	らくいと思ったらもします。子育て支援センターの役割としては、子どもに対するサポートと、そして行政がもっと背中を押していただいて、孤立しがちなお母さん方の拠り所、そういった両方のニーズに応えられる場所といった役割を果たしていただければという感想です。
事務局	多分、センターも親を支援するという視点は持っておられ、ただ、孤立しがちな親を支えることも大事にしてほしいという感想を持っておられるということでございます。 (3) ニーズ調査について 【事務局から、資料3と追加資料に基づき説明】 ニーズ調査案は国から示されている第2期の方向性、設問などに沿って作成しております。ただし放課後児童クラブと幼稚園での預かり保育については、国からの方針は後日示されることになっており、国の基本方針が出る前にアンケートを行います。就学前のお子さんの保護者に1,000通、小学生の保護者に1,000通を出します。約7割の世帯にアンケートをお配りすることになります。
会長	調査票案の間48、50、51に替えて、追加設問資料の間アの1または2と、問イにするという御提案があります。これらも含めて御意見、御質問をいただければと思います。問47の御説明のときに、1、2、3を選択したら子どもを預けてオーケーという傾向、5、6、7を選択したら主体的に子育てに関わっている傾向がわかるということでしたが、単純には言えないと思います。例えば、自分たちで主体的に子育てに向き合っている親でも共働きで、預けるしかない方もおられるので、安易に考えては危険だと思いますがいかがでしょうか。
事務局	確かにそうです、その辺りの分析の仕方をもう少し深く考える必要があります。設問自体を修正するか、設問を残してもう少し深く分析するか、御意見を頂戴できればと思っております。
会長	私個人としてはこの設問は悪くはないと思います。この設問で仕事と子育てを両立していく中でどのような仕組みが必要かを抽出していくことは良いのですが、結果を安易に捉えられないと御理解いただければと思います。優先度が高いという追加設問についてはいかがでしょうか。私の意見を申し上げますと、追加設問では幼児期に何を重視しているか、例えば習い事を中心におられる、そのような現状があったときに、もっと違う経験が大事ではないかという考えもある。その辺りの傾向を捉えて、保育や教育でどういうところをしっかりと訴えていかなければならないかという視点になります。私の知っている限りでは、このような設問が他市でその後の施策に生かされたことがありました。皆さん、いかがでしょうか。論議

	するところが多すぎてわからないかもしれませんが。
委員	問 32 ですが、子どもの居場所についてどのような機能があれば参加しやすいかを聞いているとの説明でしたが、居場所に必要な機能というよりは、子育て支援の事業の中で関心があることや更に力を入れてほしい、という聞き方が良いのではないかと思います。居場所というと冒険遊び場や子ども食堂と知っている人には思い浮かびますが、それよりは子育て支援の事業の中で更に力を入れてほしいということで迫る方が良いと思います。
会長	問 32 について居場所ではなくて子育て支援の中で力を入れてほしいことを聞く設問の方が良いのではないかという御意見でした。他はいかがでしょうか。
委員	問 48、50、51 と追加設問について先生から御意見をいただいたところでございます。一方で、私ども、先ほどの資料 1 の「まいばら福祉のまちづくり計画」にも関わらせていただき、記憶が不鮮明ですが、「ここに住みたい。」の理由の中に「近所に仲の良い人がいる。」「自然がいい。」というのもあり、確か「知り合いが多い。」のようなこともあったかと思います。ここで子育てをしたいと思うときに、サービスも大事だと思いますが、地域への愛着とか地域での活動、ここで私は地域の人と過ごしたという思い出、子どもにもそういう中で育てたいとか、そういう部分もあり、そこはカットされないように、問 49 の地域の人との交流で拾えるのかと思います。若い人が流出せずに、ここで子育てしたいという時に、サービスだけでなく人とのつながりも見ると、私の立場からは嬉しいと感じました。
会長	先ほどからの御意見と重なる部分もあり、そういうものも読み取れるとよいのではないかと、問 49 で拾えないことはないけれども、そのあたりも工夫できないかという御意見でした。他はいかがでしょうか。ボリュームとしては前回調査と変わらないですね。前回の回収率は何パーセントでしたか。
事務局	就学前児童の保護者対象が 48 パーセント、小学生の保護者対象が 48.8 パーセントでした。
会長	約半数ですね。
委員	最初に調査票案を見させていただいたときに、すごいボリュームだなと。もちろんいろんな御意見を聞いて反映したいという思いからだと思ったのですが、答えやすさを考えたときに設問の並びも気になりました。並び順で答えやすくすることで有効回答率も上がるのかと。そのように構成していただけたらと思います。回収率のお話が出まして、今後の計画策定作業

	のときに回収率が約半数以下で、本当に困っている、忙しいというかしんどい人が出てこない可能性が結構あります。ニーズ調査以外に、そういう方からの声の拾い方も考え、声を上げにくい人の声をどう計画に反映するか、全体として気になったところです。
会長	その点について事務局はいかがでしょうか。このニーズ調査だけでいくのか、もう少し拾える部分があるのか、前回のことで良いですけれども。
事務局	子育て関係団体のヒアリングを今年度中に実施予定です。直接保護者の方にお聞きすることにはなりません、直接保護者の方と接しておられる職員から御意見を頂戴できるかと思っております。
会長	団体ヒアリングは前回もやられたのですか。
事務局	前回やっているかどうかは確認したいと思います。
会長	前はわからないけれども、今回はできるだけそういう声を聞こうという機会は設ける方向です。
委員	2 ページの「ご記入前にお読みください。」のところに、いついつまでに投函してくださいと書いてありますが、封筒の表にも期限を書いたらどうかと思いました。その方が早く開けて中を見ないといけないと思うのではないのでしょうか。
会長	大事なことです、私も期日が中に入っていたら表に書き直すことがあるので、少しでも回収率を上げる工夫という御意見です。追加設問はどうでしょうか。先ほどの問 49、50、51 よりも優先度が高いということでしたが。事務局としてはどのようにお考えですか。
事務局	問 51 は非常に抽象的でわかりにくので、問 30 の項目に子ども会や P T A を増やすことで、より具体的な設問にしたいと思っております。問 48 と 50 は追加設問の問アとイに替える御提案したいと思います。
会長	問アだったら、どちらですか。
事務局	問アは、3 つに絞るのは難しいかもしれませんが、より傾向を把握したいということで、3 つに絞る問ア-1 の方にしたいと思っております。
会長	問ア-2 だと、どれが重要かわからないのでということで、私もそう思いますが、もし代わりに問アなら 1 を使用すると考えておられるということです。他のところでも御意見をいただいて、恐らくここで成案にすることは

	できないと思いますので、まずは御意見をいただければと思います。回収率に関する御意見もあればお願いします。少しでも回収率を上げて、傾向を把握したいという大切なニーズ調査でもあります。
委員	回収は郵送による返信ですね。園とかに回収箱を用意するか、前回は議論したのですが。
事務局	現在のところは返信用封筒を入れて、郵送でお返しいただくことを予定しております。
会長	回収方法も国から指定はありますか。
事務局	指定はないです。
会長	郵送が一番確実です。
事務局	確実な回収を目指すと、学校や園から配布していただき、回収も学校や園でしていただく、未就園の方は郵送していただくという方が、回収率が高くなります。
会長	それは可能ですか。学校に依頼するのは。
事務局	悉皆ではなく、無作為抽出なので、おそらく約7割の方になります。
会長	それは難しいですね。全員に配ることはできますか。だいたいどの市町村においても抽出して郵送ですね。学校に依頼すると回収率は上がりますが、全員配布も可能ですか。学校というフィルターを通すことで、何らかの意識が回答に働くことがあり、匿名性が担保されていたとしても、やはり学校で回収するというのはどうかという御意見が今ありました。すみません、私が話してしまいました。
事務局	就学前と小学生の調査票は半分以上同じ質問で、全員に配るときようだいがおられる世帯には1軒に2通も3通も届いてしまうので、1軒に1通となると結局抽出状態になり、全員に配らないこととなるのが一点。また、未就園にも全員配布することとなると、一部の年代には全員に配り、一部の年代には抽出することとなるとアンケートの精度からするとどうかというのが一点あります。
会長	データの精度の部分で考えると、やはり難しいですね、郵送の方が良いのかということを、今のお話を聞いていると思います。回収率を上げるキャンペーンをやっていただけると良いですね。

	申し訳ないですが、時間が来てしまいまして、ここで成案を御了承いただくのは難しいと思いますので、今頂いた御意見、構成や文言も含めていろいろと出ておりますので、それらを基にもう一度事務局で検討し、大変申し訳ないのですが、できたものは皆さん御確認いただきますが、最後の調整等は会長と副会長と事務局に御一任いただけますでしょうか。
会長	(了承) はい、それでは会長、副会長の方で取りまとめていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。
事務局	4 その他 (1) 今後のスケジュールについて 【資料4の説明】 御審議いただいた御意見をもとに、最後に会長と副会長で調整していただいたニーズ調査を10月に配布し、2～3週間の回答期間を設けて回収したいと思っております。その後、約1か月かけて集計いたしまして、12月の審議会で、速報の調査結果を御覧いただいて、審議をいただきたいと思っております。
事務局	(2) 次回審議会の日程について 次回は、12月21日の金曜日、ちょうど3か月後になりまして、年末の大変慌ただしい中ではございますが、ニーズ調査の結果についてまた御審議をいただきたいと思っております。
副会長	5 閉会あいさつ 皆さん、大変長時間にわたり御意見をいただきまして、本当にありがとうございました。今日はスタートから難しい話ばかりで、説明を聞いた中でも難しかったのではないかと思います。今日の大きな問題としましては、日本の人口が減っていく中で米原市の人口も減っており、資料の2にもありましたが、米原市から生産年齢人口が流出していく現状がどこにあるのかをしっかりと押さえなければなりません。ニーズ調査からは子育て世代の現状や課題は見えてきますが、その先、米原市で子育てする魅力がないから出て行く、なかなかコミュニケーションが取れない、学ぶという経験が不足しているから米原市ではダメなんだ、だから東京へ出ていく、滋賀県でも南の方へ人口移動するという現状も私たちはしっかり捉えなければなりません。このニーズ調査を通しまして、今日、市長から諮問をしていただきましたことに向かって、私たち微弱ではありますが少しずつ前に進めればと思いますので、また次回3か月後の会議で、皆さんとともにより良い審議会にしていきたいと思っております。本日は遅くまで御苦労様でした。ありがとうございました。

	閉会
--	----

会議の公開・非公開の別	☒ 公開 傍聴者： 0 人 ☐ 一部公開 ☐ 非公開 一部公開または非公開とした理由 ()
会議録の公開・非公開の別	☒ 開 示 ☐ 一部開示（根拠法令等：) ☐ 非 公 開（根拠法令等：)
全部記録の有無	会議の全部記録 ☒ 有 ☐ 無 録音テープ記録 ☒ 有 ☐ 無
担当課	こども未来部子育て支援課